

ヒルズボロの現状 2024

ヒルズボロは、2024年も引き続き、ビジネスに友好的なコミュニティを求める企業にとって、また、ここに住む人々とその家族にとり、居住し、遊ぶのに最適な都市であり続けています。11万人を超える人口を抱えるヒルズボロは、オレゴン州で5番目に大きな都市であり、オレゴン州の経済を牽引しています。コンピューター、エレクトロニクス産業を中心に、先端製造業、バイオテクノロジー、情報技術、食品加工など、多様な産業基盤がヒルズボロの経済を支えています。この多様性のおかげで、住民は仕事の機会、幅広い給与水準、多彩な住宅、そして豊富なレクリエーション活動を楽しんでいます。

産業：ヒルズボロの強み

ヒルズボロはシリコンフォレストの中心部であり、インテル、東京エレクトロン、ASML、サーモフィッシャー、クオルボ、ジレセミコンダクターなど、オレゴン州最大のテクノロジー企業の本拠地です。ヒルズボロにおける製造業の雇用の89%がハイテク分野であり、オレゴン州のハイテク製造業の雇用の44%がヒルズボロに集中していることは、驚くべきことではありません。さらに、交通、通信、水道、電力といった最先端のインフラシステムにより、ヒルズボロでは、製造業者が市場競争力を維持するために重要なインフラ設備へのアクセスと供給とが保証されています。

才能ある人材



ヒルズボロには、教育を受けた有能な人材が集まっています。今日の低い失業率がもたらす課題を認識するヒルズボロの先進製造業訓練教育連携（AM-TECH）は、業界の舵取り役としての役割を果たしています。AM-TECHは、雇用と調達（パイプライン）、技術スキルの訓練（スキルギャップの解消）に重点を置いています。さらに、産業界、教育機関、地域団体、政府が連携して官民の協力を促進し、成長が著しく需要の高い分野での労働力ニーズを支えています。参加団体は、アキュメッド、アプライド マテリアルズ、クアーズテック、インテル、ジレセミコンダクター等の各社と、ヒルズボロ学区とポートランドコミュニティカレッジなどの教育機関です。

注目を集めている事業活動

intel オレゴン州には、インテルの米国内雇用のほぼ半分が集中しています。現在までに、インテルはオレゴン州の事業に590億ドルを投資しており、さらに360億ドルをヒルズボロに投資する計画を発表しています。この投資によって、同社は2025年以降も業界を牽引するプロセス技術を提供し続けることが可能となります。この投資は、インテルの技術開発施設を拡張・近代化し、将来の開発およびプロセス技術をサポートし、世界初、最先端の高開口数極端紫外線（High-NA EUV）リソグラフィ装置を活用することで、業界をリードして行くことを目的としています。インテルは、最先端のロジックチップを設計・製造する唯一のアメリカ企業です。ワシントン郡には22,300人以上の従業員がおり、従業員の大半はヒルズボロの3つの拠点に勤務しています。

HITACHI 2022年、日立ハイテクアメリカはヒルズボロテクノロジーパークにナノテクノロジーイノベーションセンターを開設しました。このセンターは200,000平方フィートを超える広さを誇り、日立ハイテクにとって日本国外における最大のグローバル投資のひとつです。ヒルズボロは、この開発をサポートするために必要なインフラを提供しました。

RODGERS® オレゴン州ヒルズボロに本社を置くロジャースインストゥルメンツは、現在日本の神慈秀明会神苑にある象徴的なロイヤルファイブオルガンをはじめ、教会用オルガン製作において、豊かな歴史を誇っています。ヴァージル・フォックスによって設計され、多くの名だたる会場で使用されていたロイヤルファイブを、ロジャースが改装したものが、神慈秀明会の創設者への贈り物として日本に届けられました。

ACM RESEARCH 半導体業界向けウェハー処理ソリューションの大手企業であるACMリサーチ社は、2023年にオレゴン州ヒルズボロに11,000平方フィートの新施設を開設しています。この施設はACMにとって北米初の複合施設であり、オフィス、倉庫スペース、クリーンルーム/デモンストレーションラボを備えています。この場所はACMの新たな販売およびサービスの拠点となり、拡大する顧客基盤へのサポート強化を目的に、米国内の従業員数を倍増させる計画です。

Genentech ジェネンテックは2021年、ヒルズボロ施設の1億7,500万ドルの拡張工事を完了しました。同社のヒルズボロ個別化療法（HIT）施設は、個別化がん治療を含む細胞・遺伝子治療法の開発、製造において重要な役割を果たしています。

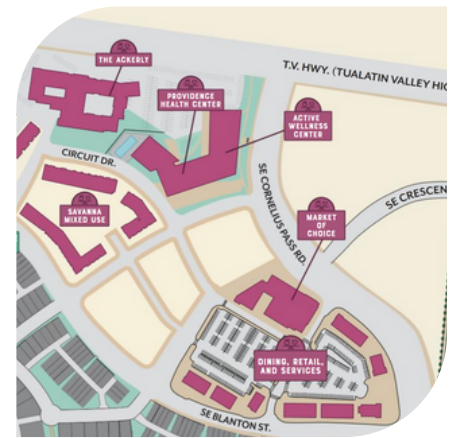


主な開発エリア

南ヒルズボロ

1,400エーカーに及ぶ南ヒルズボロの住宅地開発は、20年以上にわたる基本計画立案の策定を経て、増加する労働人口の住宅需要に対応して進められています。この地域には、様々なスタイルと価格帯の約8,000戸の住宅が建設され、約20,000人の居住者を擁することができるようになります。この開発には、285エーカーを超える新しい公園と広場、15マイルに及ぶ多目的トレイルが含まれています。1,400エーカーの内、約63%が現在開発中です。

南ヒルズボロは多目的開発地区で、職場、商店街、学校、緑地に近い様々な区域があります。自然素材を使い、健康的な住環境を優先することで知られる日本の住宅メーカー、一条工務店は、南ヒルズボロの開発業者のうちの1社です。ヒルズボロ学区は2023年秋にタマラック小学校を開校し、将来的にはこの地域の40エーカーの土地に小中学校を開校する計画です。リーズクロッシングタウンセンターは商店街、レストラン、病院等を含む104,000平方フィートの敷地で構成され、2024年秋のオープンを予定しています。高齢者住宅も商店街に隣接しています。



北ヒルズボロ

北ヒルズボロ工業地区は、オレゴン州の主要な経済牽引地区であり、先端技術や製造業の企業が集中しています。約2,000の企業があり、52,000以上の雇用を提供しています。産業の成長を促進し続けるため、ヒルズボロ経済開発評議会（HEDC）は2024年始めにヒルズボロテクノロジーパークに隣接する94エーカーの土地を購入しました。評議会は新たな民間の産業開発を促し、西側の工業用地にサービスを提供するためインフラを拡張する手助けをしています。これにより、HEDCが所有する工業用地の総面積は234エーカーとなりました。



ヒルズボロからのニュース

住みやすさ

ヒルズボロは2023年、Livability誌の「全米で最も住みやすい都市100」で29位にランクされました。3年連続のランクインです。その理由としては、持続可能性の優先順位が高いこと、大企業による弾力性に富む経済、ヒルズボロホップス（野球チーム）、ジャクソンボトム湿地保護区の美しさと野生生物などがあげられます。

ヒルズボロダウンタウンステーション

ヒルズボロ最大の屋台広場「ヒルズボロダウンタウンステーション」がオープンし、世界各国から28の屋台が出店しています。この屋外施設は2023年7月14日に大々的にオープンしました。BBQからアルゼンチン料理、ロシア料理まで、屋台が提供する幅広いフードメニューも魅力のひとつです。店内には、カフェとデザートのある2つの屋台が加わり、36種類のドリンクがいつでも楽しめる屋内バーは320人を収容できます。

ヒルズボロホップス

アリゾナダイヤモンドバックスのマイナーリーグ High-Aクラスのヒルズボロホップスは、市と提携してゴードンフェイバーレクリエーションコンプレックスに新しい球場を建設中です。この球場では、ホップスの試合やコンサート、地域イベントが開催される予定です。工事は2024年8月に始まり、2026年に完成する予定です。



連絡先:

ジム・ライリー

経済開発マネージャー

James.Riley@Hillsboro-Oregon.gov

コミュニティの教育

ヒルズボロでは、先端的製造業における人材開発をいくつかの重要な取り組みにより進めています。2年間のヒルズボロ青少年先端的製造業実習プログラムは、地元の青少年に有給による実地職業体験を提供しています。クイックスタートプログラムは、半導体分野でのキャリア形成のための10日間の有給トレーニングを提供しています。PCC未来コネクト奨学金プログラムは、11年の歴史の中で550人のヒルズボロの学生を120万ドル以上の奨学金で支援してきました。さらに、「ヒルズボロメイク」イニシアティブを立ち上げ、若者、女性、有色人種のコミュニティに焦点を当て、先端的製造業へのキャリアアップを促進しています。

ヒドゥンクリークパークウエスト

あらゆる年齢層のあらゆる能力を持つ人々のために設計された、開放的で利用しやすい場所です。現在、市全体で1,600エーカーに及ぶ土地に30以上の公園があります。



2024年9月